

# ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局  
VOL81 平成30年1月

2017年 真誠会  
合同忘年会にて  
サプライズ胴上げ

## 次世代に向かって

昨年、平成29年は真誠会にとってまさに激動の一年でした。

8月の小規模多機能型居宅介護 浜の絆の開設、10月の地域密着型介護老人福祉施設 皆生ピースポート、通所介護 皆生ローズガーデンの開設、そして11月にはサービス付き高齢者向け住宅ホスピタウンレジデンスの開設がありました。

これは今まで毎年のように新しい事業を展開してきた真誠会にとっても初めてのことで、真誠会の歴史に残る大事業でした。

また、ホスピタウン開設当時のホスピタウン構想もほぼ出来上がりました。

そして11月には、河崎先生、田原先生、春日先生に真誠会に来ていただきました。私は真誠会の次世代の土台ができたと思いました。

更に年末には夢にも思わなかった天皇陛下 御下賜金を拝受しました。

平成30年9月9日で真誠会創設30周年を迎えます。真誠会はまさに平成の時代とともに生まれ、平成の時代とともに歩み、平成の時代の終わりとともに、一つの時代に区切りをつけることとなります。

私は3月28日で74歳になります。もちろん現役医師を続けますが、これからの20年、30年は河崎先生、田原先生、春日先生、そして事務方の前田常務などが中心となり、これからの真誠会、これからのホスピタウンを作っていく時代になります。

来年からは新しい年号になり、すべてが変わるとも区切りの良い年だと思います。

次世代では更なる高齢化、少子化、人口の減少があり、2040年には4人に一人が独居化となります。介護人材も減るでしょう。そのような時代にITなどを駆使して医療福祉を通して皆様の支え、希望が持てる社会を作っていくと思っています。



社会福祉法人 真誠会  
医療法人 真誠会  
理事長 小田 貢



# 天皇陛下より御下賜金賜る ごかしきん 真誠会 特養に御下賜金 県庁で伝達式

天皇誕生日(12月23日)に際して、天皇陛下が社会福祉事業施設に金員を下賜する「優良民間社会福祉事業施設に対する御下賜金」の伝達式が平成29年12月21日、鳥取県庁で行われました。

社会福祉法人真誠会 小田理事長が平井知事から御下賜金を受け取りました。

拝受施設に選ばれたのは、介護老人福祉施設ピースポート。地域医療・介護の拠点として整備した弓浜ホスピタウン内の施設であり、地域包括ケアシステムの構築に貢献している。また、可能な限り自立して日常生活を営めるよう入所者を支援していることや、施設に放射線防護機能を持たせる改修工事に取り組んだことが評価されました。

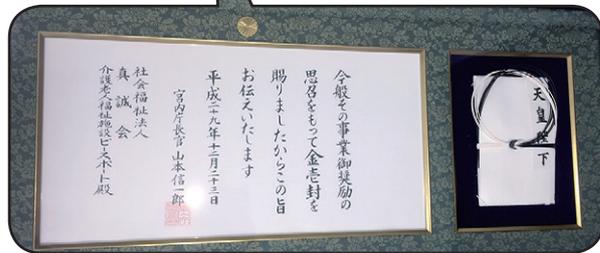
平井知事より、「先端的な活動は県内のモデル。高齢者福祉を前進させる力となっている」と感謝の言葉をいただきました。

小田理事長は、「鳥取の福祉の質の高さを全国に知ってもらいたいし、質を守る努力をしたい。今回の御下賜金はスタッフの励みになります」と話しました。

(日本海新聞より一部引用)



前田 常務理事 小田 理事長 平井 県知事 ピースポート 上村施設長 ピースポート 亀澤師長



## サービス付き高齢者向け住宅「ホスピタウンレジデンス」 竣工&見学会 60室

11月26日に竣工したサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)は、60歳以上の方ならどなたでも入居が可能な、いわばワンルームマンションで、各種の介護保険サービスを受けることができます。真誠会では、セントラルレジデンス(米子市西福原8丁目)に次ぐ2棟目のサ高住です。特徴は、なんとといっても真誠会セントラルクリニックと同じ敷地内にあるので、迅速な対応と高い水準の医療を提供することができます。比較的病弱な方、医療依存度の高い方、緩和ケアを必要としている方に安心して入居していただけるのも特徴で、終の棲家として、看取りも可能です。

訪問診療や、24時間定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービスのほか、緊急時には往診も行っています。元気な方は同じ敷地内にある健康クラブやデイケア、認知症専門通所サービスも利用することができます。



↑ホテルのフロント・デスクのような受付



廊下やロビー、レストランを豪華なシャンデリアで明るく照らされています。



壁の廊下をゴッホやミレーの絵画(複製名画)が飾られており、ホテルのような上品な雰囲気の中で、豊かな気持ちで老後を過ごしていただけるよう配慮した住まいです。→



←完成見学会の様子

## 日野原重明先生の精神を受け継ぐ ホール完成

ホスピタウンレジデンスに併設した『日野原・小田記念ホール』は、教会様式の建築で、故・日野原重明先生（聖路加国際病院名誉院長、医療法人真誠会名誉理事長）の魂とホスピタウン発祥の地としての聖地を表現したものです。20年間に及ぶ日野原先生と小田理事長との師弟愛を記念して篤志家からの寄付で建築、名付けられました。



日野原・小田記念ホール

## 米子市内初の 地域密着型介護老人福祉施設 竣工&見学会

### 地域密着型介護老人福祉施設

### 皆生ピースポット 29床 +短期1床

11月に開所した施設は、特養施設の中でも、定員29人以下の地域密着型サービスを提供し、さらに10人程度を一つの家の単位としたユニットケアを行う施設として、米子市内でも初めてです。従来の定員100床前後の大型施設と異なり、家と同じ暮らしの継続の場となるよう、きめ細かなサポートを行っています。

地域密着型とは、各中学校区内に一つある公民館のような役割を想像していただければ理解しやすいと思います。皆生ピースポットは29床の個室が3つのユニットに分かれています。特徴は、ゆとりある広さにあり、共有スペースは従来の施設の倍ぐらいに感じるほどです。

地域の住民の皆さんに足を運んでいただける地域交流スペースは100人近くが利用できる広さがあり、地域の皆さんと一体となった催し物を開催できます。

施設の内外装は映画「ローマの休日」を思わせるようなイタリアの街をイメージした造りで統一。入居者の方だけでなく、従業員も楽しく働ける環境にある。地域の皆さんもイタリアの街角に来たような雰囲気の中で、ゆったりとご家族との歓談ができる場所です。



竣工式や見学会では職員もローマっ子に扮装



イタリアの街角をイメージした広場

## リハビリ強化型デイサービス 皆生ローズガーデン

定員20名  
将来定員35名予定

皆生ピースポットに併設したリハビリ強化型通所介護（デイサービス）は、ローズガーデン（米子市富士見町）、セントラルローズガーデン（米子市西福原）の姉妹施設です。登録定員は約100人で毎日30人前後にサービスが行えます。特徴は、なんとと言ってもサービスの利用者には温泉を楽しんでいただくことができること。また、地域交流スペースでは、地域の皆さんと一緒に現代版の井戸端会議ができたり、認知症介護相談などのオレンジカフェもあります。この場所で、互いに顔を合わせて信頼関係を醸成することで、人生90年、100年時代の助け合いの地域の基礎を築いていくことができることを願っています。



完成見学会の様子。  
2日間で約700人来場し大盛況でした。

## 第13回 弓浜助け合いネットワークの会 ～「我が事・丸ごと」の地域づくり 現状と課題～

【主催】 米子市（米子市弓浜地域包括支援センター）／弓浜助け合いネットワーク実行委員会  
 【共催】 社会福祉法人真誠会 NPO 法人がいなネット  
 【後援】 米子市社会福祉協議会

米子市弓浜地域の住民、行政、専門機関が連携して地域づくりを考えるシンポジウム「第13回弓浜助け合いネットワークの会」が昨年12月3日、同市大崎の弓浜ホスピタウンで開かれました。「我が事・丸ごとの地域づくり～現状と課題」をテーマに、参加した地域住民ら約400人が、基調講演や意見交換会を通して、ますます重要になる地域での助け合いについて理解を深めました。



### 基 調 講 演

#### 「人生100年時代に向かったの人生設計の作り直し」

人生100年時代の到来は目前です。どんな将来が待っているのか、どう迎えたらいのかを皆さんと一緒に考えていこうと思います。

2025年には、800万人ともいわれる団塊の世代が後期高齢者になり、国民の4人に一人が75歳以上の超高齢化社会に突入するといわれます。これが「2025年問題」です。何も手を打たなければ医療や介護、年金など社会保障費が立ち行かなくなります。そこで国は2000年に介護保険制度を導入し、3年ごとに計画を見直して2025年に対応しようとしています。

高齢者が住み慣れた地域に住み続け、在宅で最期を迎える「地域完結型」の社会を目指して、地域包括ケアシステムの構築が進められています。地域完結型の社会は、中学校区などの小さな単位で基本的な医療や福祉などのサービスを提供する社会です。

私たちは13年前から、この弓浜助け合いネットワークの会を開いて情報を共有し、助け合いの意識を高めてきました。「助け合い」と「ネットワーク」が、地域完結型社会の重要なキーワードになるのです。

昔は人生50年、60年という時代で、定年退職後は悠々と過ごし、誰にも迷惑をかけずに最期を迎えるのが一般的でした。ところが人生90年時代となり、引退してから最期を迎えるまでに20年、30年とかがかります。

2016年の平均寿命は男性が81歳、女性が87歳、自分のことを自分でできる健康寿命は男性72歳、女性74歳でした。2050年には、平均寿命が男性84歳、女性90歳と推計されています。平均寿命に比例して健康寿命は延びません。その分、介護が必要な状態が長くなります。誰かのお世話にならなくては生きられないのです。

私たちは、生を受けた時から死が定められています。仏教には、人として免れない四つの苦しみとして「生老病死（しょうろうびょうし）」という言葉があります。現代は認知症の「認」の文字を入れた「生老病認死」でしょう。

人生長ければ全て良しではなく、苦しみも多くなります。常に人のためにも働けるような気構えで、生きがいを持って生きることが幸せな老後につながります。

人生100歳と考えたときに頭に浮かぶのは、恩師の故日野原重明先生です。実際に105歳まで生きられ、「死を見つめることは生を直視し、今日を精いっぱい生きることにつながる」と身をもって示されました。

日野原先生の最後の言葉は「キープ・オン・ゴーイング（前に進み続けよう）」。私たちも前に進み続けましょう。



医療法人・社会福祉法人 真誠会  
理事長 小田 貢氏

## 弓浜地区の5つの団体が、 地域の課題や取り組み事例、 今後の展望などを発表



司会進行/  
米子市弓浜地域包括  
支援センター長  
石原 慎吾 氏



### 大篠津ケア会議の取り組み

大篠津御崎自治会  
会長 岡田 隆氏

昨年9月に大篠津ケア会議を立ち上げ、計3回の会議を開きました。ケア会議の概要や介護保険について学んだほか、地区の世帯と人口の実態を把握、自治会の世帯台帳を更新して取り組む内容を確認しました。

在宅福祉委員の協力により、高齢者に届ける弁当給食と一緒に、困りごとがあればお知らせくださいというチラシを配布することができました。地域でお互いに助け合う昔のような関係を取り戻したいと思います。



### 崎津地区の取り組み

崎津地区社会福祉協議会  
会長 矢倉 検治氏

崎津地区地域ケア会議発足に向け、一昨年から二つの取り組みに重点を置いています。一つは認知症サポーター養成講座。もう一つは、地域の高齢者や保育園らが交流できる崎津夢農園の開園です。夏野菜を作付けし、10月には収穫祭をしました。今後はさらに範囲を広げて、18年度の地域ケア会議の結成を目指して、取り組みたいと思います。



### 和田地域ケア会議

和田校区自治連合会  
会長 田邊 忠雄氏

和田地区の高齢者はさまざまな活動に積極的に参加しています。いきいきサロンやマツ守り隊、ふる里祭り、綿づくりプロジェクト、介護支援ボランティアなど。ケア会議は15回開き、高齢者の地域での見守りや、買い物困難者や要支援者の対応などに取り組んでいます。「ケア会議新聞」も発行。防災会も結成され、地域の防災や要支援者のマップ作製も動きだしています。



### 河崎地域ケア会議について

河崎御建自治会  
副会長 井原 純一氏

2015年に立ち上げた御建地域ケア会議の取り組みを河崎校区の他の自治会にも提案したところ、16年に河崎地域ケア会議が発足。地域全体で独居や障がい者を含めた高齢者世帯の見守りと支援のために、自治会の緊急連絡網を整備し、民生委員と連携して助け合い見守りマップの作製を進めています。助け合いの輪が広がるように地域全体で取り組んでいく覚悟です。



### 小規模多機能から共生社会の実現へ

小規模多機能型居宅介護 浜の絆  
管理者 柿本 和也氏

「浜の絆」は昨年8月に開所。高齢者支援だけではなく、地域住民が集い、相談できる場所を目指しています。「まちの保健室」の役割も担っています。毎月地域の皆さんが集える行事を催しており、地域の助け合いの中心になれるよう、皆さんと一緒に歩みたいと思います。

平成29年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」



ドイツ短期海外研修



真誠会セントラルクリニック  
訪問リハビリテーション  
事業所長  
岡田 健吾

私は 10 月に内閣府の事業である、地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」高齢者分野の 9 名に選ばれ、ドイツに派遣されました。

個人テーマを「高齢者を取り巻くセラピストや地域の支援団体の役割、団体内におけるボランティアの制度・仕組みを学び、高齢者が地域に参加できる機会と場を提供する架け橋となる」として、ドイツでの高齢者に対する地域活動や社会参加支援についての取組みや自助・互助の関係構築における考え方を学び、地域の活性化を図るための作業療法士としての役割やあり方について学びました。

今後、地域の中で自分らしい生活を送る事ができるよう自己決定の尊重、「高齢者は弱い立場である」「老いはさみしいもの」等のイメージで一括りにするのではなく、自分ごととして捉える当事者意識の啓発と、年をとることへのイメージ啓発（ポジティブ・シニア）にも取り組んでいき、その人の「生涯」を一緒に考えていき自助・互助の強化を図っていきたいと考えております。また、日本作業療法士協会・鳥取県作業療法士協会を通じて、作業療法士が社会活動に積極的に参加できるよう支援する役割を担って教育機関や行政機関へ伝えていきます。



地域の園児と入居者の交流



年をとる事へのイメージ啓発（ポジティブ・シニア）  
（元大臣、兼元ドイツ高齢市民組織協議会（BAGSO）代表ウルスラ・レーア博士）

日野原重明先生追悼

第21回ホスピタウン交流会in神戸 2017



真誠会、にしくまもと病院、真星病院、そして個人として倉橋 卓男先生（公立八鹿病院 救急部長・総合診療科 部長）は、強い絆で結ばれ、各病院持ち回りでホスピタウン交流会を開催しています。

昨年 10 月 21 日、第 21 回ホスピタウン交流会が、真星病院（神戸）で開催されました。同日は、「ふれあいフェスティバル 2017」も開催され、市民講座で日野原重明先生追悼講演がありました。小田理事長が「日野原重明先生から学んだこと」と題して講演を行いました。真誠会からは、理事長、副理事長、幹部 5 名が参加し、取り組み発表などを行って交流会を行い親睦を深めました。

今年は、米子ホスピタウンでお待ちしております♪

2018年 今年の漢字



左上から 大石醒悟先生、林先生、倉橋先生、大石麻利子先生  
小田理事長、小田副理事長



・・・個人表彰受賞者・・・

- 栄養課 佐藤一美  
(管理栄養士)
- 弓浜真誠会訪問介護  
山田千佳 (介護福祉士)



小田理事長に表彰される  
藤本ジェニー (左) と  
若竹庵事業所長 杉谷めぐみ (右)

昨年の真誠会合同忘年会で、毎年恒例の真誠会アカデミー賞の表彰がありました。今年は個人グランプリに真誠会セントラルクリニック看護助手藤本ジェニー（ペルー出身）が受賞しました。

団体（事業所）グランプリは若竹庵（脳活性クラブ弓浜真誠会）が受賞しました。理事長支援のもと崎津夢農園を開園し、積極的に崎津地域住民の活性化を図っています。

知っとこ!

## 睡眠時無呼吸症候群について ～良質な睡眠とれていますか？～

真誠会セントラルクリニック 主任臨床検査技師 木村 尚美

「いびきがうるさい」「睡眠中に呼吸が止まっている」と言われたり、日中に強い眠気を感じたりすることはありませんか？そのような症状がある方は睡眠時無呼吸症候群（SAS）かもしれません。放置しておく心不全や脳卒中といった重大な病気を引き起こす可能性や、日中の眠気のために交通事故や災害事故を起こす危険性が高くなります。当院では、ご自宅にて簡単な機械を装着して測定する簡易検査および1泊入院の上で行う精密検査のどちらも実施可能で、データ解析も院内にて臨床検査技師が行っています。検査の結果 SAS と診断された場合には当院にて治療も可能です。

私は昨年9月に岡山市にて開催された睡眠検査に関する研修会に参加し、検査手技から解析まで最新のガイドラインに基づいた内容の研修を受けさせていただきました。また、11月から真誠会に着任された河崎先生は呼吸器内科医であり、SASの診断や治療についても専門領域のひとつとされていますので、気になる症状がある方はお気軽にご相談下さい。肥満のある方やお仕事でお車の運転をする機会が多い方なども一度検査を受けられることをお勧めします。



お問い合わせ先/真誠会セントラルクリニック検査科 ☎29-0099

## 平成29年度鳥取県原子力防災訓練

平成29年11月19日（日）に鳥取県原子力防災訓練が弓浜ホスピタウンにて行われました。当日は約50名の職員が参加しました。真誠会では米子ホスピタウンに設置した真誠会対策本部と、現地対策本部（弓浜）をテレビ会議で結び、弓浜ホスピタウンの各施設にて訓練を行いました。当日は内閣府災害担当、鳥取県副知事、県の防災責任者、保健福祉部長も視察にいられました。



重油補充の立会を行うにあたり、防護服を着用しています。



各事業所から召集した職員に対し担当分けを行い、避難準備の指示を行っています。

## 新年のご挨拶 ～本年も



辻田耳鼻咽喉科  
院長 辻田 哲朗

### 泣かんかったー

平成も 30 年になりました。なんかアッという間のような気がします。辻田耳鼻咽喉科も開院してはや 30 年近くになりましたが、昔と全然変わり映えしませんし、ボク自身も 30 年たっても何も進歩してないなアーと思ってしまいます。

30 年もやっていると昔、小さな子どもだった患者さんがいつの間にか大きくなって（そう、いつの間にかです。久しぶりに会ったら大人になっていた。という感じです。）、そして今度は子どもさんを連れてやって来てくれるようになりました。何か自分だけ時代に取り残された気分になります。

耳鼻科の場合結構子どもが多いので、院内はかなり賑やかになります。それと大人でもいやな耳や鼻をかまわないといけないので、やられる子どもにとったら命がけで抵抗したくなります。特に中耳炎の時は大変です。痛くても処置をやらないといけないですが、この子たちは、「昔耳鼻科に行ってとっても痛いことをされた」と、トラウマになりはしないかとちょっと心配になるくらいです。それでも不思議なことに時々診察が終わったら泣きながらも「バイバイ～」と手を振ってくれると少しだけ罪の意識が軽くなります。さらに、最初はワンワン泣いていた子が、何回か通ううちに泣かなくなり、帰る時に「泣かんかったー」と頑張った自分を褒めるようなことを言うのを聞くと、この子たちも日々成長してるんだなーと思います。

今年も全然変わり映えしないですが、よろしくお願いします



いえはら歯科  
院長 家原 猛

### 2018 新春

2018 年の年頭に当たり、謹んで初春のお慶びを申し上げます。

今年は、米子市にホスピタウンが誕生して 30 周年を迎えます。昨年 12 月には河崎に日野原先生・小田先生の記念ホールとホスピタウンレジデンスも完成し、小田先生の大きく展開された医療福祉の町、ホスピタウン構想も完成という節目を迎えました。新たなステージの幕開け・引き継ぎということでしょうか。私としても何か新たな試みや特別な情熱で磨きを懸けたいと思っています。私も平成 30 年は還暦の年に当たります。体力の維持、健康には気遣いながら、歯科診療や訪問歯科を通じて、地域の皆様の「しっかり噛んで食べられる」を大切に、サポート、貢献したいと考えています。いろいろの機会を通じて見識を深め、スポーツデニティストなど、いろんな角度からお役に立てる仕事ができればとも思っています。大山も開山 1300 年を迎え大いに盛り上がることでしょう。皆様との触れ合いの中で元気を頂き、また、皆様に元気を提供できますよう、平成 30 年も気合を入れて、が・ん・ば・り・ま・す！

皆様にとりまして本年がご健勝で、幸多い年となりますようご祈念致し、新春のご挨拶と致します。



# よろしくお願ひ致します～



介護老人保健施設  
弓浜ゆうとぴあ  
施設長 五明田 亨

## 年初めに思うこと

平成 30 年は戌年で何回目かの年男になりました。

昨年真誠会では色々な出来事がありました。まず、多くの施設が完成しました。11 月にはホスピタウンレジデンスが完成し竣工披露宴には各界の名士の方が多数参加され盛大に開かれました。

理事長先生の晴れやかな姿が印象的でした。三箇所の施設の新設もあり大変な一年だったと思われませんが、予てからの念願だったホスピタウン構想がひとまず完成を見られたことは誠に喜ばしくおめでたいことでした。

また、年末には真誠会始まって以来の三人の先生方の赴任がありました。今年は真誠会創立 30 周年目に当たり重ね重ねおめでたく嬉しいかぎりです。これ

までは、多くの施設の運営と 500 人を超える職員をお一人で教育、指導をされた先生の働きは正に超人的で常に驚きと尊敬そのものでした。

これからは先生方の助けを受けられて、少しはゆとりをもって頂きたいものと願っています。ただ昨年は大変悲しい出来事もありました。残念なことに心底から師と仰がれていた日野原先生を亡くされたことは誠に痛恨な極みでしたが、その志を継承され更に前進をして頂きたいと心から願っています。

職員一同 30 周年を期に更に真誠会が発展、成長すること願っています。



真誠会セントラルクリニック  
統括施設長 院長代理  
医学博士(呼吸器内科)  
河崎 雄司

## あけましておめでとうございます

私は昨年 11 月より真誠会にお世話になり、12 月末からは介護老人保健施設「ゆうとぴあ」に勤務するようになりました。ご承知のように高齢者の死亡原因はより高齢になるにしたがい悪性新生物の割合は減少し、肺炎、心不全などの心疾患、老衰が多くなります。私は呼吸器内科医であり、本年は施設の方の肺炎、特にその予防に微力ながら携りたいと思っております。高齢者の方ではフレイル(脆弱)から disability(要介護状態)へと進むにしたがい嚥下障害が出現し、誤嚥などによる肺炎も多くなります。この慢性期医療の根幹をなすフレイルや disability の

予防、治療は肺炎の予防にもつながる要素を多く含んでいます。施設「ゆうとぴあ」には慢性期医療に精通された看護師、リハビリや介護の方々が多く在職されておられます。このスタッフの皆様と協力しながらフレイルや disability の予防、治療に努めることにより、施設入所の方の肺炎予防に少しでも寄与できればと思っております。

また、実際の医療の現場では肺炎が生じやすい方を早期に発見することも重要であり、スタッフの皆様と勉強しながら早期発見の手段を考えていきたいと思っております。未熟者ですが、何卒ご指導のほど宜しくお願いいたします。



医療法人・社会福祉法人  
真誠会 本部長  
介護老人福祉施設  
ピースポート  
施設長 上村 真澄

## 出会い

年末の講演の中でも小田理事長は、「出会い」について触れておられました。素晴らしい人との「出会い」、また本との「出会い」もあろうかと思えます。普通、「出会い」というものは偶然と思うでしょうが、それを振り返ってみた時、「あの時の出会いが、今の自分を造っている」という思いに駆られると、それは単なる偶然ではなく、必然であったのではないかと思うものです。

「出会い」は単なる偶然ではありません。せっかく素晴らしい出会いがあっても、それに気づかなかつたら「出会い」はそのまま通り過ぎてしまい「出会い」とはなりません。「出会い」が「出会い」として経験されるためには、「出会い」のための「場」が必要です。この「場」を育てること、これが私たちにとって大切なことです。この「場」が、良き「出会い」を呼び込み、人と人を結びつけるのです。

自分自身を磨くこと、いつでも素晴らしい「出会い」を逃さず掴み取るために自分自身を磨いて、素晴らしい「出会いの場」をつくりましょう。いつも将来のビジョンを持ち一生懸命頑張りましょう。そうすれば素晴らしい「出会い」が訪れるでしょう。「出会い」を単なる偶然に終わらせてしまってはなりません。出会うべくして出会うのです。今年も皆さんに素晴らしい「出会い」が訪れるよう祈っています。

# 新年のご挨拶 ～本年も

## 今年も頑張ります。



医療法人・社会福祉法人  
真誠会  
看護・介護統括部長  
俵 智恵美

昨年は新たらしく4つの事業所が増え、職員も50名増員され一回り大きい真誠会となりました。各事業所の所長も経営の視点や顧客サービスの視点を考慮しリーダーシップを発揮する姿に成長を感じる今日この頃です。

年末に行った法人内の管理者研修ではリーダーに必要な概念化能力について演習を交えて勉強会をしましたが、しっかりした介護観・看護観・セラピスト観から管理観として事業所を運営していることも確認でき頼もしくも感じました。

また、昨年は管理者研修にM&Cパートナーコンサルティングの酒井麻由美先生、小濱介護経営事務所の小濱道博先生、メディックプランニングの三好貴之先生を講師に招き30年の報酬改定に備えたサービスのあり方について学びました。各事業所の課題が明確になり早速、加算取得に繋がるサービス、その人らしさを支えるサービス、実地指導に堪える環境改善・記録等々について取組みました。

平成30年の社会保障予算案は幸いにも微量のプラス改定とのことですが、確実に私達のケアの成果が評価される年になります。

昨年に引き続き、法人を利用してくださる方々が住み慣れた地域で継続して生活・社会活動に参画していただけるようなサービスが提供できるように取り組んでいきたいと思ひます。

また、法人の全体最適を視野に入れ、障がいも含めた包括ケアの体制へ整備し事業所長とともに実践していきたいと考えています。

今年で3回目の年を真誠会で迎えました。そして、年女で還暦を迎えます。

医療・福祉を担う真誠会の管理者として「前進また前進を私達は続けなくちゃならない。キープオンゴーイング」という日野原先生の言葉を心して今年も頑張りたいと思ひます。

総従業員数	564名
総事業所数	45事業所

2018年1月現在



真誠会セントラルクリニック  
事業所長 西川 悦子

超高齢者社会となり制度も目まぐるしく変化し在宅医療が進められるなか、「家に帰りたい」「自宅で過ごしたい」という患者・家族の思いを大切に、できる限り住み慣れた地域で療養し、身近な人に囲まれて在宅での生活或いは最期を迎えるよう

訪問診療に力を入れて取り組んでいます。

田原先生、春日先生、小山センター長と共に一致団結し、また訪問看護・訪問リハビリテーション・訪問介護等と連携を強め、安心して在宅療養ができるよう努めています。

そのためにも更に看護師のスキルアップに努めてまいります。



介護老人保健施設  
ゆうとぴあ  
事業所長 齋木 真由美

最近テレビや新聞等で、筋肉量が減少するサルコペニアと虚弱という言葉のフレイルという言葉を目にする機会が多くなってきました。これらは要介護状態となる原因とされ、予防するためには「食べて」「動く」ことが大切と言われて

います。

リハビリ施設であるゆうとぴあでは、昨年度から「食べる」ために飲み込みの嚥下評価、嚥下体操と、「動く」ためにまずはトイレ動作に着目し、立位訓練やトイレ動作がスムーズに行くようリハビリに力を入れて取り組んできました。

今年はこの二つに加え、施設長河崎先生の指導を仰ぎながら、医療・介護関連肺炎（誤嚥性肺炎）の予防にも取り組みたいと考えています。





# よろしくお願ひ致します～



真誠会医療福祉  
連携センター  
センター長 小山 雅美

真誠会医療福祉連携センターは、昨年開設 10 年を迎え、『相談窓口一本化の強化』を図りました。法人内・外部からの相談を真摯に受け止め、スムーズな調整を心がけました。今年は、医療保険・介護保険の同時改正があります。『医療』と『介護』をつなぐ要として、より一層の調整を実践し、地域から信頼される相談窓口でありたいと考えています。



介護老人保健施設  
ゆうとぴあ  
介護係長 山根 賢一

今年はゆうとぴあでは、社会的使命である在宅復帰について地域の皆様の期待に応えられるようにさらに力を入れていきます。在宅復帰の課題は排泄と食事が多く挙げられます。昨年よりこの2点は意識的に活動を始めましたが、今年は昨年に作った土台を活かして、リハビリと評価を重要視して推し進めていきたいと思ひます。リハビリ施設として、できる可能性に着眼し、できる動作を増やし、満足感にあふれる退所支援をしていきます。



地域密着型介護老人福祉施設  
皆生ピースポート  
リハビリ強化型通所介護  
皆生ローズガーデン  
事業所長 佐平 登志美

当施設は米子市初の地域密着型福祉施設として、昨年 11 月 15 日開所いたしました。開所後 2 ヶ月足らずの施設ですが、地域密着型施設として地域の皆様に貢献できる施設でありたいと思ひます。施設では、四季折々の行事、地域交流スペースを活用したオレンジカフェの開催など様々な催しを計画しております。地域の方々が、いつでも立ち寄れる場所として、皆様に愛されるような施設運営を目指したいと思ひます。

また通所は、リハビリ強化型通所としての役割を担い、地域の皆様の健康維持向上に努めてまいります。



介護老人福祉施設  
ピースポート  
事業所長 亀澤 正子

昨年は職員の異動が大勢あり、ご利用者を初めご家族にはご迷惑をお掛けすることもあったと思ひますが、新任職員の新しい風とパワーが入り、これまで以上にやる気を持って頑張っています。

人間の基本的欲求である排泄が、あるべき姿で行えるように支援するという思いから今年度は排泄介助の向上に取り組んでいます。また、在宅での介護が困難な方、医療依存度の高い方を積極的に受け入れ、質の高いケアをすることがピースポートの重要な役割であると考えています。

取り組みの継続と、看取りケアを含めた重度者のケアについて職員一同研鑽を重ね、「安心して過ごせる施設」と言っていただけよう頑張ります。よろしくお願ひいたします。



介護老人保健施設  
ゆうとぴあ  
事業所長 岡田 修治

弓浜ゆうとぴあでは、昨年は「在宅復帰に必要な機能の向上」とご利用者の目標達成に向けてセラピストによるリハビリだけでなく、生活リハビリにも取り組んできました。また、摂食機能障害を有する方に、多職種でミールラウンドを実施し口から食べる楽しみが継続してできるよう支援をしています。

今後、ご利用者の思いを大切に、数ある老人保健施設の中から“選ばれる施設”を目指し、職員一丸となり取り組んでいきたいと思ひます。



リハビリテーション科  
課長 大西 博巳

今年は、介護報酬改定があります。その中で、「地域包括ケアシステムの推進」「自立支援・重度化防止に資する質の高いサービスの提供」を打ち出しております。真誠会では、施設から在宅まで切れ目なくリハビリの提供ができます。今年は提供だけでなく「質の高いリハビリ」＝「成果・結果のでるリハビリ」を各事業所で実施します。特に生活機能（歩行動作・排泄動作・食事動作）・役割の再獲得に力をいれて本人の望む生活が獲得できるよう支援いたします。





# 新年のご挨拶 ～本年も



訪問看護ステーション  
ネットケア  
事業所長 神田 典枝

訪問看護では、自宅で過ごしたいという利用者・家族の思いに寄り添い、安心して在宅療養生活が送れるような看護の提供を努めています。病院からは医療依存度の高い方も退院され、在宅で過ごされることが増え、訪問看護師に求められる看護内容も医療的ケアに関するものも増えてきています。私たち訪問看護師は、日々スキルアップに励み利用者一人一人が安心して生活していただけるよう看護の提供に努めてまいります。



通所介護真誠会  
セントラルローズガーデン  
事業所長 道祖 正紀

セントラルローズガーデンでは、健康クラブ、デイサービス(予防・支援)、デイサービス(要介護)、認知症対応型けやき庵共に、活動と参加に視点をあて、利用者様一人ひとりの目標達成を目指してまいります。今年も運動習慣の継続、社会的交流、認知症予防の取り組みを行い、住み慣れた地域で自立した在宅生活の継続が図れるようにサービス提供を行います。また、オレンジカフェの取り組みと共に、米子中央ホスピタウンとして富士見町ローズガーデン、皆生ローズガーデンの両事業所ともに連携を図り、地域活動、地域貢献が図れるように取り組んでいきたいと思ひます。



介護予防センター  
真誠会  
事業所長 澤田 健太

昨年 4 月より事業所長に着任いたしました。日々、学びながらご利用者皆様の笑顔に支えられ頑張ることができました。介護予防センター真誠会では、ご利用者様のやりたい気持ちを大切に、「趣味」「生きがい」「楽しみ」を共に模索し、やりたいことができるに変わるよう運動プログラムを提供しています。これからも皆様が「元気」で「笑顔」が溢れる事業所作り、またご希望ご期待に添えるよう職員一同邁進していきたくと思ひます。



真誠会セントラルクリニック  
訪問リハビリテーション  
事業所長 岡田 健吾

平成 29 年 6 月より真誠会セントラルクリニック訪問リハビリは、介護保険・小児・難病の方を対象としてリハビリテーションを提供できる事業所としてスタートしました。自分の住み慣れた住まいで生活を送ることができるように、身体機能だけではなく、その方の日常生活・その人らしい人生を考えサービス提供していきます。また、ご利用者様が地域活動への参加・社会的な役割の獲得が図れるよう、「地域の中で自分らしく生きること」を目標に支援していきます。



通所リハビリテーション  
ゆうとぴあ  
事業所長 小磯 孝則

通所リハビリテーションゆうとぴあでは、利用者様の生活が安心して暮らしていけるように、利用者様に対して身体や心のリハビリ、生活のリハビリに取り組んでいくように努力しています。そして、高齢であっても、心身に障がいがあったとしても、イキイキとした生活が送れるように利用者様やご家族とコミュニケーションを持ちつつ、在宅での役割や地域との関わりを再獲得が出来るように支援していきたくと思ひます。本年も、職員一同、笑顔と元気で皆様のご利用をお待ちしています。



通所リハビリテーション  
真誠会  
事業所長 森 貴広

昨年 9 月より集団活動として音楽療法の取り組みを開始しました。リズム体操や唱歌や単語記憶などのメニューをさせて頂いています。今年も、音楽療法士と理学・作業療法士を中心に身体機能や認知機能面に対してのメニューを考え、より効果的な内容にしています。利用者様の「したい活動ができる活動」になるようにスタッフ一丸となり、リハビリや活動のサポートをさせていただきます。



通所リハビリテーション  
弓浜ゆうとぴあ  
事業所長 山崎 慎吾

通所リハビリテーション弓浜ゆうとぴあでは、身体的ケア、身体リハビリ、心のケアを重要な課題として取り組んでいます。また、出来るだけ日常の自立生活度を上げることに努力しています。実際にご利用者の自宅へセラピストが訪問し、在宅での生活状況を実際に確認させて頂き、リハビリプログラムを作成しています。本年も「利用者様の日常生活の向上」を目標におき、リハビリや活動のサポートを職員一丸となって行なっていきます。



# よろしくお願ひ致します〜



ケアハウス  
リバーサイド  
事業所長 米谷 正

ケアハウスの特徴は、日常生活を自立して行える 60 歳以上の方に対して、食事や入浴といったサービスを提供する老人福祉施設です。食事や入浴以外なら個人の時間は自由に使うことができます。

当施設では医療・保健・福祉のホスピタウンネットワークの中で連携ができる環境にあり、全ての医療・介護サービスに対応することができ、安心してお住まいいただくことができます。また当施設の年間行事に加え、体操・レクリエーションなど開催し、健康寿命を心がけ長くお住まいいただくことを願っております。

〜



小規模多機能型  
居宅介護浜の絆  
事業所長 柿本 和也

8 月 17 日の開所から 4 ヶ月が経ちました。昨年は皆様のご協力で大人から子どもまで沢山の方々が参加できる地域行事を開催する事が出来ました。今年も地域の方々と共に歩み、地域から愛され、必要とされる施設運営をしていきたいと思っています。

浜の絆では毎月第 3 水曜日にオレンジカフェ、毎週火曜日によろず相談室を開催し、お気軽に何でも相談できる体制を整えています。地域の方々から「浜の絆があって良かった」と言って頂けるような施設を目指して職員一同 1 年間頑張っていきたいです。



グループホーム  
青松庵  
事業所長 秋田 将宏

昨年も地域の行事に参加させていただいており 9 名の入居者の方と小・中学校の運動会、球技大会の応援に出掛けています。新たな取り組みとして富益公民館長、富益自治連合会長のご指導の下、青松庵便りを回覧板で回覧させていただけるようになりました。今年も青松庵が地域と共に暮らしていけるように取り組みたいと思います。



脳活性クラブ米子真誠会  
(童謡の里)  
事業所長 福島 貴雄

昨年は、「活動」に焦点をあて、情報収集・共有を行いご利用者に合わせた活動を提供してきました。米とき、味噌汁作りなどの家事活動、農園活動、編み物や習字などの趣味活動をお 1 人お 1 人に寄り添って活動の幅を広げています。今年、「参加」に焦点をあて、昨年以上に地域の方々との交流し絆を深めていきたいと考えています。ご利用者お一人おひとりが住みなれた地域での生活が継続できるよう「活動と参加」を目標に職員一同努めてまいります。



グループホーム  
椿庵・桜庵  
事業所長 赤井 康人

昨年グループホーム椿庵・桜庵は、公民館祭やいきいきサロン、運動会など様々な地域の行事に利用者や職員共々参加をさせて頂きました。「地域の中で普通の暮らしができる」という理念を実現する為には、このような活動が必要であるということを改めて実感しております。本年はより地域の皆様と関わる機会を広げて、入居者及び地域の方が安心して、笑顔で過ごせるような居場所になれたらと思います。皆様、今年もどうぞお気軽に椿庵・桜庵にお越しください。



脳活性クラブ弓浜真誠会  
(若竹庵)  
事業所長 杉谷 めぐみ

昨年は崎津地区に畑をお借りし、地域の方のご協力で崎津活性化プロジェクト夢農園を開園することが出来ました。地域住民、利用者、子ども、障がい者が共に作業し触れ合う場が出来ました。若竹庵を地域の方に知って頂く機会を頂きました。今年も夢農園を通して地域の方との交流を図っていききたいと思います。又、利用者がそれぞれの住み慣れた地域での行事に参加しいきいきとした生活が送れるよう活動していきたいと思います。



看護小規模多機能型  
居宅介護真誠会ふる里  
事業所長 花房 幸雄

ふる里は住み慣れたご自宅で安心して生活していただけるよう、通いを中心に泊まり、訪問介護、看護を組み合わせ、独自のサービス内容を提供させていただいています。また、地域の皆様との連携にも力を入れており、ふる里祭りを代表に、いろいろな行事も計画させていただいています。これまで地域の皆様と共に歩んでまいりました歴史を大事にしなが、益々高齢・重症化の進む中で、1 人でも多くの方に笑顔で生活していただけるようスタッフ全員で新たな可能性に挑戦しながら前進していきたいと思います。





# 新年のご挨拶 ~本年も



富益しあわせ  
デイサービス  
事業所長 中田 純平

昨年より理学療法士が加  
わったことで、充実した機能  
訓練が提供できるようになり  
ました。今後も利用者の在  
宅生活を支え、いつまでも  
その人らしい暮らしがおくれ  
る様、職員一丸となり支援  
させていただきます。また、敷地  
の一角に「富益しあわせ農  
園」を作りました。今後も利  
用者が活躍できる場をたくさ  
ん作っていきたいと思います。



ケアプランセンター  
弓浜真誠会  
事業所長 松田久美子



ケアプランセンター  
東山ローズガーデン  
事業所長 森脇美佐緒



通所介護  
弓浜ゆうとぴあ  
事業所長 角田 靖

通所介護弓浜ゆうとぴあ  
では、5月より新たに理学療  
法士が仲間入りし機能訓練  
を通じて在宅生活の維持と  
社会参加を大きな目標として  
掲げております。“以前はよ  
くしていたのに今は出来な  
くなった”“誰かの役に立ち  
たい”といった思いを最大限  
に引き出し住み慣れた地域  
で発揮して頂けるよう支援致  
します。



ケアプランセンター  
セントラルローズガーデン  
事業所長 竹内奈緒美



居宅介護支援事業所  
真誠会  
事業所長 大宮 紀子

これからは地域の皆様に「元  
気になるるデイサービス」と  
して周知して頂けるよう職員  
一同努めてまいります。

真誠会では河崎、大崎、西福原の3つの事業所  
に加え、昨年、富士見町に新しく事業所ができ、法  
人内の居宅介護支援事業所が4つになりました。4  
つの事業所で、それぞれご相談いただいたご利用者  
の方の意向に沿った対応をさせていただけるよう連  
携を図っております。介護、リハビリ、認知症など、  
お困りごとがございましたらいつでもお気軽にご相  
談ください。



通所介護真誠会  
ローズガーデン  
事業所長 松井 智

ローズガーデンは昨年初め  
て公民館祭に出展させて頂  
き、自治会ふれあいの会な  
ど地域の行事に利用者や職  
員と共に参加させて頂きま  
した。地域の方々と触れ合  
う中で高齢者世帯・独居が  
増え今後の生活や介護につ  
いて不安を感じておられる  
地域の方々が多くおられ、  
改めて地域での活動が必要  
であると感じました。本年  
も昨年以上に地域へ出向  
いて行き、皆様と関われる  
機会を広げてより多くの方  
に知って頂ける事業所を目  
指していきたく思っております。

ご利用者の望む暮らしの実現のため、暮らしと地  
域を支える専門職として、ご利用者様・ご家族が安  
心して住み慣れた地域で暮らし続けられるよう力を  
合わせてまいります。



訪問介護弓浜真誠会  
事業所長 山田 千佳

今年は大きな法改訂があ  
り、医療と介護が近づく年  
となります。今後も高齢化  
は進んで行く中で利用者様  
が、安心して住み慣れたご  
自宅で過ごせるようご本人  
の生きる力、自分らしく生  
きる力が引き出せるサービ  
スの提供が出来るよう努  
めてまいります。



定期巡回・随時対応型  
訪問介護看護真誠会  
事業所長 福島 知義

「住み慣れた家や地域で暮ら  
し続けるように」と期待され  
創設されたのが「定期巡回  
随時対応型訪問介護看護」  
です。訪問看護や生活援助  
についても、一体的にサービ  
スが提供され、また訪問の  
都度、必要なサービスを柔  
軟に提供できる点も当サービ  
スのひとつです。昨年はホス  
ピタウンレジデンスも開所と  
なり、医療依存度の高い方  
々にも対応させて頂いてお  
ります。今年度も職員一同、  
ご利用者の方が安心・安全  
に生活していただけるよう日  
々努めてまいります。





# よろしくお願ひ致します～



真誠会  
セントラルレジデンス  
事業所長 佐々木 雄史

セントラルレジデンスは真誠会で初めてのサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）で、今年で開所5年を迎えます。サ高住とは、全館バリアフリーの建物で、生活相談や安否確認を基本サービスとし、介護が必要になっても介護保険や訪問診療など、必要なサービスを組み合わせ利用できる自由度の高い住宅となります。

私がセントラルレジデンスに異動し約10ヶ月となりますが、真誠会の理念である「愛と謙虚さ」の気持ちで質の向上に努め、職員一同でより生活のし易い満足できる環境の提供を目指してまいります。



社会福祉法人 真誠会  
総務課長補佐  
真誠会 ホスピタウンレジデンス  
事業所長 竹下 将史

サービス付き高齢者向け住宅「真誠会ホスピタウンレジデンス」は、昨年12月13日に開所いたしました。真誠会では、平成25年に開所した真誠会セントラルレジデンスに次ぐ2棟目のサ高住です。

真誠会ホスピタウンレジデンスは、真誠会セントラルクリニックや訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所に隣接しているため、迅速な対応と4名の医師（小田医師、河崎医師、田原医師、春日医師）による高水準の医療を提供することができます。また、ホテルのような上質な雰囲気の中で、入居者様も豊かな気持ちで過ごしていただける住まいとなっております。

真誠会ホスピタウンレジデンスは、医療・看護・福祉の一体的サービスが受けられ、安心・安全を実現できるものと思っています。職員一同、皆様のお役に立てるよう、そして地域社会に貢献できるよう、日々研鑽してまいりたいと思っております。

真誠会ホスピタウンレジデンスは、医療・看護・福祉の一体的サービスが受けられ、安心・安全を実現できるものと思っています。職員一同、皆様のお役に立てるよう、そして地域社会に貢献できるよう、日々研鑽してまいりたいと思っております。



透析施設オアシス  
事業所長 加瀬部 寛

昨年は、新規透析患者の方の事前訪問を紹介先病院へ出向き、患者の背景、特徴、検査データ等を事前に知ることで途切れの無いケアに努めました。また、臨床工学技士は透析機器のみならず、シリンジ・輸液ポンプ、呼吸器メンテナンスも強化し、医療機器の故障による事故ゼロを継続中です。

私たちのモットーは「安心・安全な透析療法を提供すること」です。

今後も透析患者とそこご家族が安心して透析療法が行えるようにチーム一丸となって、愛と知識を持ち信頼される透析室を目指していこうと思っております。



医療法人真誠会  
総務課長 長谷川 俊彦

真誠会では、平成29年に新しい事業所を4カ所オープンしました。新規事業を成功させるためには多くの優秀な人材が必要です。最近人手不足が社会的な問題となっており、医療・福祉の業界でも優秀な人材を確保することが大きな課題となっております。

真誠会の事業を更に発展させるため、職員が意欲を持って働ける職場作りを目指し、人事制度の改定に向けた検討を行っております。

また、介護ソフトの更新も準備しており、各職員が、持てる能力を発揮し質の高いサービスが提供できるような仕組みづくりを構築してまいります。



医療法人真誠会 常務理事  
社会福祉真誠会  
総務課長 前田 浩寿

真誠会は常勤医師が5名になり医療が、また、新たに3つの拠点整備を行ったことにより介護が、これまで以上に充実したサービスを提供できるようになりました。患者さん、利用者さん、そして、地域の皆さまに更に頼りにされる真誠会にするために、今年も昨年以上に努力しなければならないと決意を新たにしております。

また、本年は医療保険、介護保険の同時改定があります。国の方向性を実践していくことは勿論ですが、それ以上に私達の患者さん、利用者さんの要望をしっかりと理解し、真誠会の新たなサービスを作り出していく使命を感じています。同時に、サービスを提供する主体である職員が、やりがい、充実感、働きやすさを感じることができるよう真誠会グループ全体で働きやすい職場作りに取り組んでいかなければなりません。利用者・職員・経営の3つの観点を常に熟慮し、永続的なサービスが提供できるよう全力を尽くします。



(有)メディカルフロンティア  
生活支援隊  
課長 長山 誠司

私たちは真誠会グループの一員として、福祉用具・介護用品の販売貸与業、給食受託業を中心とした事業を通して、誰もが快適で安心安全な生活が送れ、また利用者の要望に迅速にお応えできるように目指しています。

昨年は新たに中古福祉用具販売事業を開始し、法人及び個人から多数の発注をいただきました。今年もマーケティングとマネジメントを経営の両輪として常にビジネスモデルを考えます。「一点突破、全面展開」をキーワードとして、とにかく焦点を1つに絞って、そこを突破口としていきます。

昨年は新たに中古福祉用具販売事業を開始し、法人及び個人から多数の発注をいただきました。今年もマーケティングとマネジメントを経営の両輪として常にビジネスモデルを考えます。「一点突破、全面展開」をキーワードとして、とにかく焦点を1つに絞って、そこを突破口としていきます。

～真誠会 年末年始の過ごし方～

**外浜ホスピタウン**  
 看護小規模多機能型  
 居宅介護真誠会 ふる里  
 グループホーム椿庵・桜庵  
**地域交流合同餅つき会**

地域の皆さまと一緒になって年末の餅つき会をしました。和田保育園からも可愛らしい園児もやってきて、

元気な掛け声が響き渡りました。



**米子ホスピタウン**  
 介護老人保健施設  
 ゆうとぴあ  
**とんどさん**



河崎御建地区のとんどさんがやってきました！無病息災を祈願して獅子舞に頭を噛んでもらいました。



**米子ホスピタウン**  
 通所リハビリテーション  
 真誠会  
**年越しそば作り**



2つのグループに分かれて、年越しそばとかき揚げを作りました。少々固くなりましたが、味は合格をいただきました。



元旦・2日と施設入口に鳥居を立て初詣をしました。鳥居をくぐると賽銭箱と御神籤が準備されており、今年1年の運試しをされました。

**弓浜ホスピタウン**  
 通所介護弓浜  
 ゆうとぴあ  
**初詣**



**外浜ホスピタウン**  
 富益しあわせ  
 デイサービス  
**書き初め！**

今年の抱負を絵馬に！！書初めに！！大きな事から小さな事までそれぞれの抱負を胸に今年も

一年よろしくお祈いします。



**米子中央ホスピタウン**  
 通所介護真誠会  
 ローズガーデン  
**カラオケ大会♪**

お正月企画としてカラオケ大会を行いました。「久しぶりに歌ったけど案外声が出たな～次までに練習しとかないけないわ」と話され楽しまれました。職員と一緒にデュエットもされ息がぴったりでした！

